

そして、
神々は
舞い降りる。

諏訪大社・下社
すわたいしゃ・しもしゃ

山出し [木落し]
平成22年
4月9日 [金] 10日 [土] 11日 [日]

宝殿遷座祭
平成22年5月7日 [金]

里曳き [建御柱]
平成22年
5月8日 [土] 9日 [日] 10日 [月]

諏訪大社・上社
すわたいしゃ・かみしゃ

山出し [木落し・川越し]
平成22年
4月2日 [金] 3日 [土] 4日 [日]

里曳き [建御柱]
平成22年
5月2日 [日] 3日 [月・祝] 4日 [火・祝]

宝殿遷座祭
平成22年6月15日 [火]

平成二十二年 庚寅年
【諏訪大社式年造営御柱大祭】
長野県無形民俗文化財

おんばしら

信濃之國 諏訪大社
一之宮
七年目毎に一度の
天下の大祭!

奥山の太木
里に下りて
神となる

下社 山出し「木落し」

上社 里曳き「建御柱」

【諏訪大社式年造営御柱大祭】 長野県無形民俗文化財

御柱祭

おんばしら

御柱祭(おんばしら)とは

七年目毎に一度の天下の大祭「御柱祭」。正式には「諏訪大社式年造営御柱大祭」(すわたいしやしきねんそうえい・みはしらたいさい)とい、寅と申の年、社殿の造営(現在は宝殿)と御柱と呼ばれる巨木の曳き建てを行う、信濃の国一之宮、諏訪大社のお祭りです。

御柱祭は、そのスケールの雄大さ、祭事の特異性などから日本の大祭のひとつとも数えられます。起源など今も謎に満ちている部分が多く、史料によれば千二百年以上前の奈良時代にはすでに行われていたと伝えられますが、それ以前にも遡るといわれています。直径約一メートル、長さ約十七メートル、重さ約十二トンにもなる巨木を山から切り出し、それを人力のみで里へと曳き出す「山出し」が四月に、里を曳き最後に各社殿を囲むように四隅に建てる「里曳き」が五月に、上社・下社それぞれで行われます。上社の前宮・本宮、下社の春宮・秋宮の四宮×四本、計十六本の柱を諏訪地方の各地区がそれぞれ担当し、諏訪人は全精力かけて祭りに奉仕します。

諏訪大社

諏訪大社は上社(かみしゃ)と下社(しもし)に分かれます。そして上社には本宮(ほんみや)と前宮(まえみや)があり、下社には春宮(はるみや)と秋宮(あきみや)があります。上社・下社ともに夫婦神とされる建御名方神(たけみなかたのかみ)、八坂刀売神(やさかとめのかみ)を主祭神としています。その歴史は太古に遡り、狩猟の神、風の神、水の神、農耕の神として信仰され中世以降は東国第一の軍神として武将たちが崇敬し全国に分霊を持ち帰ったことから各地に御分社がおかれました。現在では、全国に約一万以上の御分社があるといわれています。

そして、 神々は 舞い降りる。

御柱祭◆行程概略

いよいよ、御柱が動き出します。



■上社の御柱

【山出し】…平成22年4月2日(金)3日(土)4日(日) | 綱置場に置かれた8本の御柱は茅野市宮川にある御柱屋敷まで11.9kmの道程を氏子らにより曳行される。道中、難所の木落とし、川越しがある。

【里曳き】…平成22年5月2日(日)3日(月・祝)4日(火・祝) | 御柱屋敷から前宮まで約1km、本宮まで2.3kmと山出しと比べて曳行距離は短くなり、街道沿いは観衆で埋め尽くされる。本宮、前宮の境内に曳きつけられた各4本の柱は、社殿の四隅に建てられる。

【宝殿遷座祭(ほうでんせんざさい)】…平成22年6月15日(火) | 本宮に東西二棟ある宝殿を御柱年ごとに交互に建て替え、新しい宝殿へ御霊代(みたましろ)や剣などの神宝を移す行事。

■下社の御柱

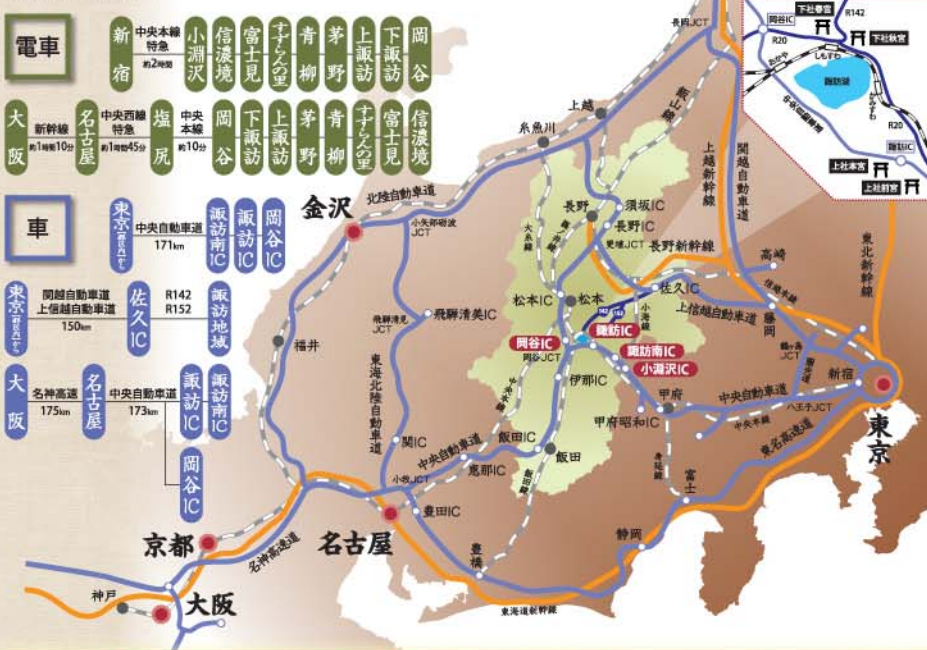
【山出し】…平成22年4月9日(金)10日(土)11日(日) | 曳行は注連掛(しめかけ)まで4.7km。道中、萩倉地区を過ぎた地点で最大難所、木落とし坂にぶつかる。

【宝殿遷座祭】…平成22年5月7日(金) | 里曳きの前日の夜、春宮で執り行われる。明かりを消した中で神職が御霊代を遷座する。

【里曳き】…平成22年5月8日(土)9日(日)10日(月) | 曳行は注連掛から春宮が1.7km、秋宮までが3.1km。道中の下諏訪町内は騎馬行列や長持ちなどで賑わう。春宮、秋宮の社殿四隅に4本の御柱が建てられフィナーレとなる。



資料:「徳州・市民新聞グループ」



下社秋宮
国重要文化財 | 諏訪郡下諏訪町上久保5828
TEL.0266-27-8035



上社本宮
国重要文化財 | 諏訪市中洲宮山1
TEL.0266-52-1919



下社春宮
国重要文化財 | 諏訪郡下諏訪町大門193
TEL.0266-27-8316



上社前宮
茅野市宮川2030
TEL.0266-72-1606